



蛇の因縁返し



今年の干支（えと）は蛇。その蛇にちなんだ中国の寓話です。

むかし、ある男が、鶴につつかれて泣いている小蛇をたすけてやりました。家で飼つているうちにこの蛇、家よりも大きく象でも食べてしまふほどの大蛇になりました。

「なにか困ったことがあつたら山の洞穴（ほら）の前で石をカチカチと三回打つてください」と言い残して山へ帰つていきました。それからズーッとあと、都でお姫様が大病になりました。お薬は大蛇の皮です。それを献上したものは県知事にしてやると王様のお触れがされました。男は早速山の洞穴にたづねていって、蛇に皮を脱いでもらい、それで県知事にしてもらいました。

ところが何年かして、またお姫様が病気にかかりました。今度は大蛇の口の中にある珠が必要になりました。「大蛇の持つてゐる珠を献上したものは、総理大臣にとりたてる」ということでした。男は早速山の洞穴に行きました。大蛇は口をアーンと大きく開けて大事な珠をくれました。そうしてこの男、総理大臣にまでとりたてられました。

ところがしばらくしてお姫様、今度はもつと重い病気になりました。「大蛇の生き肝を持つてきた者には、姫をお嫁につかわす」というお触れ。おとこは、これで俺も王様になれるわいと、山の洞穴にいつてカチカチ三度石を打つて大蛇にたのんだ。さすが蛇も困ったが「恩人のたのみであるなら、命がけだけれど、肝を半分だけあげましよう」。男は刀をもつて大蛇の口の中へもぐり込んだが、蛇はあまりの痛さに大きな悲鳴をあげてのたうちまわった。のたうちまわつてゐるうちに蛇は、思わず男を飲み込んで食べてしまつた。

これが中国の寓話です。
「人間の欲は、象を飲み込んでしまう蛇よりも大きく恐ろしい」

20世紀という過去の一〇〇年間、とくにこの日本と言う国は「より速く」「より高く」詰まりだけではなく、友であるはずの鳥や獸からも見放され、大事な地球という自然環境も廃墟のように荒れ果てさせ、わが命さえもいま見失おうとしています。

21世紀。

ナムアミダブツ。

友であるものと共に。帰命無量寿如来、眞実のいのちの回復に、ひとりひとりがとりくまなければならぬことを、改めて教えられたことありました。



デーサービスセンター

老人ホームのお世話をなる程でもないがしかし家庭では介護しきれないお年寄りたちを、一日お預かりして、入浴や食事など出来るだけの介護をして、一日その仲間どうし楽しく幸せに過ごしていただきお手伝いをする所が、

デーサービスセンターです。

車椅子の方もいます。かなり痴呆の進んだ方もいらっしゃいます。

そこにはまた、その方々をお世話する看護婦さん・相談員その他介護職員とよばれる若い女性の方々が働いています。

利用者は、年齢的にもお体の状態もまちまちです。

なににつけても「ありがとう」とうりがとう」とおとなしいお年寄りもありますが、ときには不平不満を大声でぶちまけたり、乱暴な態度で反発なさる人もないわけではありません。

そんなときの若い看護婦さん介護職員さんたちは、

ちの対応が実に見事というより「介護のお手本」を見せられるよう、しばしば感動させられ教えられているのです。

先日もそのわよなことがあって、わたし

その後、そつと聞いてみたのです。

「あんなに反発するのなら、いつそ来るのを止めてもらつたら」「あんなに暴れるのだから利用禁止にはできないの」

「でもねー、あんな乱暴なことはを叫ぶの

も、暴れるのも、その陰にあの人の言うに言えないので家庭の事情があつたり、病気のつらさ

があつたりであんなふうになっちゃうのです。

わたしたちは、それを察して、乱暴なことは

が出来ない先に、粗暴な行動がでないようにし

てあげなければならないのです。それが介護

ということだと私はおもつてます」

そういうわれる看護婦さんの顔とその瞳を、

わたしは一段と神々しく美しく思いました。

むかし中国に、孔子さまに次いで出られた孟子というかたは、「仁」というところ「人を愛する」ここらのないものは人ではない。

人を愛するとはその人のことばや行為の陰に隠されたその人の事情や思いをくみとる「惻隱（そくいん）」のここらこそ、親子の愛・

人類愛すべての愛の基本なのだと教えている

ということです。

また私は、このことがあってから、しきりに「和顔愛語（わげんあいご）・先意承問（せんいしょもん）」といふ、いつかのご説法を思い出しておりました。「ほとけさまのあのなごやかなお顔つき、あのやさしいお言葉は、いつたいどこから出て来るのだろうか。それは、わたしが痛いと言つまえに、わたくしがつらいと呻くまえに、痛いのと違うかえ、つらいだろうな」とよびかけたずねてくださつてゐるからだ。

一月のことよみ

一日 友遊クラブ
二日 DS 検診
三日 教区布教団研修会
四日 仏事組合
五日 出石組「連研」打ち合わせ（善立寺）
六日 DS
八日 DS PTA
九日 認定委
十一日 仏婦評議員会
十三日 DS
十四・十五日 近畿ブロック布教使研修会
十五日 判定 子供会（ふれあい）
十六日 薩山克巳氏法事
十八日 足立幸夫氏法事
十七日 石野家忌明法事
二十二日 出石組組内会（本覚寺）
二十三日 DS 判定
二十六日 基推企画常任委員会
二十七日 全国布教同志会大会
みのりを聞く会定例法事

看護婦さんのあの神々しいことばやお顔と重ねて、いまこの私に「つらいだろうな」、くるしいだろうな」とのぞき込むようにして呼んでいてくださる如来様のお念佛のことを味あわせていただきました。

田中 勇一さま
上小田
（87才）



代議員会報告

新たな世紀の開けた早々、一月二十八日（午前10時）、平成十三年度勝林寺代議員会が開かれました。重誓偈のおつとめに続いて、住職・前住職のあいさつ。議長に総代平野 稔氏を選び議事運営がなされました。議案順に簡略に説明致します。

四月一・二日勤修の住職継職・蓮如上人遠忌法要は各方面ご門徒の格別のご懇意と全面的なご奉仕をいただいて盛大厳肅に円成できた。これについては、ここ数年間にわたり綿密な計画立案のもと総代役員、仏事仏婦門徒一人一人の懸命真摯な実効と積年培われてきた法味愛樂のあらわれであったといま改めて感謝もうしあげたい。この法要をバネにして、その他恒例の行事も仏事仏婦組織を軸にして例年以上盛大に推進された。とくに年度末除夜会は、除夜の鐘つき・雑煮接待のこともあるって続いて當なまれた年賀法要「修正会」には町内外の若者を中心に満堂の参詣でお正信偈のお勤めをし新世紀を迎えた。

二、十二年度会計決算報告提出
現在勝林寺は、「経常会計」「基本会計」「布施会計」と「継職法要特別会計」が代議員会では次の二会計について報告がなされた。(他は理事会・総代会の所掌)

- ① 営繕費（法要関連で施工したので大幅に節減出来た。浄化槽清掃、浄化槽ポンプ、駆虫剤、法衣洗濯など）
- ② 教化費（仏事仏婦助成、寺報の郵送、テレホン法話機器など）
- ③ 教養費（本山出版物、宗教新聞購読）
- ④ 経常費（カレンダー、香華灯明、電気・ガス・石油）
- ⑤ 交際費（寺関係の慶弔）
- ⑥ 公課金（本山・教区・組への義務金。覚如上人遠忌懇志）
- ⑦ 事務通信費（連絡案内、封筒、電話など）

平成13年度 勝林寺役員名簿

地区名	代議委員	仮社	仏婦
寺坂	山田博文	山田博文	山田洋子
日野辺	坂本剛志	坂本剛志	坂本道江
桐野	奥地桑男	奥地桑男	奥地和子
百合	谷原富雄	谷原富雄	谷原富佐江
坪口	関岡李繕	坂本貢	坂本智佐登
坪口	中島利一		
榎見	湯口富雄	中山重雄	湯口年枝
榎見	湯口博文		
和屋	成田 騰	成田 肇	成田リク代
鉢山	足立幸夫	足立幸夫	足立ふみ子
暮坂	平野秀夫	平野秀夫	平野好乃
片間	藤田忠夫	藤田忠夫	藤田志げ子
丸中	立脇 晃	立脇 晃	立脇みさゑ
出石	兼井元三郎	兼井元三郎	兼井彰子
出石	永井角治	永井角治	永井正子
出石	成田捷明	亀井 孝	亀井幸枝
佐田	石田隆雄	石田隆雄	石田文子
奥栗尾	兼井太一	兼井太一	兼井清子
口栗尾	兼井隆雄	兼井隆雄	兼井清美
正法寺	山田芳美	山田芳美	山田せつ子
正法寺	数森三男		
口小谷	宮嶋幸男	宮嶋達也	宮嶋久美子
口小谷	宮嶋董和		
奥小谷	蔭山克己	澤田善男	澤田ごづえ
保谷	岸下正美	岸下正美	岸下菊美
東里	森戸義則	森戸義則	森戸たきえ
太田	坪木隆晴	坪木隆晴	坪木文子
唐川	仲田義夫	仲田義夫	渡谷貞子
出合	清水正和	関川 永	関森八重子
市場	福富修	大石正和	大石正代
日殿	森井勉	森井勉	森井成子
矢根	岩出酒一郎	岩出酒一郎	
矢根	永井かめの		永井かめの
野尻	衣川正之	衣川忠良	衣川はるの
小田	谷垣久司	谷垣久司	谷垣はつ子
小田	斎藤義弘	斎藤義弘	斎藤幸惠

平成12年度 経常費収支決算書

＜収入の部＞

	予算	決算	比較増減
繰越金	¥3,458	¥3,458	¥0
経常費	2,681,000	¥2,600,000	¥-81,000
賽銭他	50,000	¥37,050	¥-12,950
補填	¥0	¥0	¥0
合計	¥2,734,458	¥2,640,508	¥-93,950

＜支出の部＞

	予算	決算	比較増減
營繕費	450,000	¥279,044	¥170,956
教化費	700,000	¥681,139	¥18,861
教養費	60,000	¥50,400	¥9,600
経常費	350,000	¥348,904	¥1,096
交際費	50,000	¥150,000	¥-100,000
公課金	580,000	¥622,931	¥-42,931
事務通信	120,000	¥145,262	¥-25,262
法要費	400,000	¥336,098	¥63,902
予備費	24,458	¥0	¥24,458
合計	¥2,734,458	¥2,613,778	¥120,680

平成十三年度
行事計画
経常会計予算

例年と格別の行事はない。たたか出石組の第十二期の『連研』（門徒推進員養成連続研修）が始まる。積極的な参加を希望したい。また、教区では九月五日「御同朋総結集大会」が予定されている。それぞれの組や寺が、名実ともに御同朋（みんな）の「てら」についているかどうか相寄って点検し、二十一世紀へ向けて「あたらしい寺づくり」に取り組もうと集い会う集会である。勝林寺として、積極的に参加研修したい。そうした構えのかで、仏壯仏婦相携えて例年どおりの行事に取り組みたい。

勝林寺の門徒個数は新規加入二戸を含めての現在数二百二十一戸。

一方、山門・鐘楼建築から繼職法要にいたる事業費を、銀行や個人などから借り入れており、その返済もあって、平成十四年度までは特別積み立て金になお努力ねがわねばなりません。この経緯了解のうえ、代議員会として新年度の行事計画並びに予算案を了承し可決いたしました。

勝林寺の門徒個数は新規加入二戸を含めて
の現在数二百二十二戸。

H13年 経常費会計予算(案)

＜収入の部＞

	昨年予算	本年予算	比較増減
総歳金	3,458	26,730	23,272
経常費	2,681,000	2,707,000	26,000
賛助他	50,000	50,000	0
補導	0	0	0
合計	2,734,458	2,783,730	49,272

＜支出の部＞

科目	昨年予算	本年予算	比較増減
營繕費	450,000	450,000	0
教化費	700,000	700,000	0
教養費	60,000	60,000	0
経常費	350,000	350,000	0
交際費	50,000	70,000	20,000
公課金	580,000	580,000	0
事務通信費	120,000	150,000	30,000
法要費	400,000	400,000	0
予備費	24,458	23,730	-728
	2,734,458	2,783,730	49,272